

# 1・20法大包围デモへ!

2015年12月18日  
No.349

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

## 民主労総と連帯し日本でもゼネストを!

### 12・16ゼネスト連帯集会での斎藤委員長アピール!

みなさん、お疲れ様です。きわめて緊急の行動ということで本日、本当に多くの方にお集まり頂きありがとうございます。昼の大使館前抗議行動もみんなの力で行われたと思います。韓国ゼネスト連帯1日行動ということで、最後まで韓国・民主労総のゼネストと連帯し闘いぬいていきましょう。

本日の韓国・民主労総のゼネラルストライキ、これはいまの時代に対する根本的な解答であると、私は思っています。

いま、全世界的に再び大きな世界中をまきこむような戦争が始まる、こういう感覚をもっている人は消して少なくはないんじゃないでしょうか? 07年、08年のパリバ・リーマンショック以来、経済危機はますます深まり、それに歩調を合わせるようにして、資源や市場、そして勢力圏をめぐる大国間の戦争は、度を増して激しくなってきました。今年、ついに中東とりわけシリアをめぐる、トルコがロシア軍機を撃墜することによって、そしてトルコの側をNATOが支持することによって、NATO対ロシアという世界を巻き込むような戦争の構図が、ますます世界戦争への導火線に火がついたといわざるをえない状況になっています。これはウクライナで行われている構図と全く一体です。東アジアに目を向けてみれば、南中国海の利権をめぐる、アメリカと中国が激しくぶつかり、さらに近いところに目を向けてみれば、いま作戦計画5015というものが策定されて、朝鮮へのふたたびの侵略戦争が狙われています。日米同盟調整メカニズムという新しい制度が作られて、日本も具体的に集団的自衛権を持って、戦争法を持ってこれに参戦していく、むしろ積極的に自らはじめていく、こういう動きがますます強まっています。一方で、こういった戦争の情勢、とりわけシリアに対する空爆はひどいものです。

この間多くの人権団体が、有志連合によるシリアに対する空爆の内実を発表しています。少ない統計でも5割以上、多い統計では7割から8割が民間人が死んでいるといわれています。つまり100人が空爆によって死んだら、50人以上、



おおい場合には70人、80人がISではなく民間人が殺されている、こういう統計がでてくるわけです。毎日のようにこの空爆が繰り返され、虐殺につぐ虐殺が行われている。資源を取り合って市場をとりあって、金儲けのために、毎日毎日何百・何千といわれる人が殺されているわけです。この現実に対して、IS側がテロという方法でパリ事件という痛ましいかたちで反撃をしていく。これでどんどん、惨劇が拡大していく。こういう状況が起きています。有志連合の側を、アメリカやロシアやフランスやドイツや日本の側

を支持するなんてできやしない、だけれどもテロという方法で反撃する連中を支持することなんて論外。結局殺されているのは、シリアにおいてもパリにおいてもどの国においても労働者や学生、市民の側です。この戦争で利益を上げているような連中は全く変わらず、椅子にふんぞり返って、みんなの生き血を吸って生きている、この現実が延々と続いている。

みなさん、この状況に対してどうすればいいのか? そのことが、ますます問題になっていると思います。話を冒頭に戻します。韓国・民主労総のゼネストは、まさしくこの時代に対する回答です。労働者が団結して戦争を拒否し、貧困に対して戦争を進める政権を倒すために、ゼネラルストライキに立ち上がる。戦争に動員されるのは私たちです。軍事物資を生産するのも輸送するのも、そして実際に戦場に行くのもやるのは全部私たちです。だから私たちがストライキをやったときに、戦争なんかできやしない。本当に戦争をとめるということがどういうことか。そのことを韓国の闘う仲間たちは示してくれました。

それと一体となって、韓国・民主労総につづいて、安倍政権を倒すゼネラルストライキをやろうと訴えていることの中に、私はこの時代を根本的に覆す力があると思っています。11月の労働者集会で民主労総の仲間はこう言いました。「階級戦争は一朝一夕でおきるものではない。ゼネストは一朝一夕でおきるものではない。何人もの、名もない



活動家が英雄的に何年も活動して、そしてやっとそういうことが起きるんだ」と。いま私たちが取り戻さなくてはいけないのは、そういう力です。具体的に労働運動を甦えらせ、私たち全学連でいうならば、日々大学の中で行われている軍事研究に反対して具体的に戦争を阻止するストライキを巻き起こしていくことです。そしてそれらすべてを繋げて、民主労総に続く巨大なゼネストをこの日本にも作り出そうじゃないですか。私たち全学連は、この2015年、民主労総の仲間に学んで、ゼネストに連帯し、「大学でストライキをやって戦争をとめよう」と掲げて闘ってきました。10月27日、京都大学で戦争反対のバリケードストライキを打ち抜くことに成功しました。

みなさん！ 私たちは決断して、決意し、団結すれば必ず、ゼネストをやることはできます。ストライキを実現し、資本家階級の支配に対して、職場から立ち向かうことは必ずできます。動労千葉はこの間ストライキに立ち上がりました。戦争に反対し、外注化を阻止し、非正規職を撤廃するために、正規・非正規の壁を越えた巨大なストライキが闘われました。それに学んで闘ってきた多くの組合が、ストライキで闘うことに挑戦していると思います。

今日この場にも、その挑戦をしている仲間たちが、本当にたくさんいると思います。いまこの挑戦は世界中の課題です。私たちはこの闘いをもっともっと激しく燃え上がらせていこうではないですか。本日、パククネ政権と安倍政権、両方を串刺しにするような大闘争をこの場で実現しようではありませんか！

渋谷の街にいる、多くの労働者や学生に韓国でこんなことが起きているんだってことを、私たちが団結して闘えば勝つことはできるんだってこと、誰がこの社会の主人公だって事をはっきりさせてやろうじゃないか！ こういうことを徹底的に訴えて、この力で、パククネ政権、安倍政権、両方を倒していきましょう！ 改憲を粉碎する大闘争を巻き起こしていきましょう！

そしてそれと一体で、これを実現する新しい労働者の政党をこの日本に作り出していきましょう。本日はその新たな出発点です。共に闘いぬきましょう。

私たち全学連は、大学から戦争反対のストライキを2016年必ず巻き起こします。この社会をひっくかえす力を民主労総から学んで、共にこの日本からも作り上げていきましょう。戦争を必要とするこの社会を私たちの足元から根本的に変えていきましょう。私たちの足元にある泉は、ぜったに枯れることはありません。なぜならば、その泉は私たち自身だからです。私たちの決断は、私たちがあきらめない限りなくなることはありません。

共に闘いぬいていきましょう。ありがとうございました。

## 東北の学生から、 12.5拡大中央委員会の感想！

12月に行われた全学連拡大中央委員会は、来たる2016年決戦に向けて全体が高揚し大成功しました。特に印象に残ったのが、斎藤委員長の「私たちは「民主主義」のために学生運動をやっているわけでありませぬ…『労働者階級の勝利』のためにたたかっています」という発言だ。この発言を聞いたとき、私は共産主義者として、日本国憲法、戦後民主主義、学問の自由etc…といった資本主義が労働者階級に幻想を持ち込み、労働者階級を支配するイデオロギーを徹底的に粉碎しなければいけないと思いました。今なら、京大バリストは資本主義社会の支配を粉碎する偉大な挑戦だったと総括できるし、また他の大学でもバリストをどんどんやって支配を打ち倒していきたいと思います。そして、法政大で自治会を再建し、バリストを実行した時には新自由主義大学は完全に無くなり、労働者階級の勝利＝プロレタリア革命は間近です！ そのためにも、2016年決戦—法大闘争の前進、参院選勝利で戦争反対・改憲阻止で全国大学反戦ストライキに突き進みたいと思います。

### 【当面する行動方針】

#### ●1・20法大包围デモ ～法大闘争10年！ 武田君処分撤回！～

1月20日(水) 12時半に市ヶ谷キャンパス集合→13時にデモ出発(13時半に終了予定)

【呼びかけ】法政大学文化連盟／全学連

#### ●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて

